

○計画期間：平成28年4月～令和3年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和元年度終了時点（令和2年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市では、平成28年3月に「福知山市中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、継続した中心市街地の活性化事業に取り組んでいる。

集客拠点の一つである駅周辺では、主要事業の一つである「駅正面リニューアル事業」を福知山フロント株式会社が牽引し、国や市の支援事業を活用して1店舗の開業をみており、同時に不動産オーナーと交渉を重ね、新たに4物件の新規開業の実現に向けた取組みを進めている。これまでの4年間で自主出店も含め10店舗が開業しており、地域ニーズを充足する店舗の参入による集客力の向上と新たな客層の誘導を図ることで、地域の活性化に繋げている。また、長らく駐車場利用されていた低未利用地で民間による112戸のマンション建設及び販売が開始され、まちなか居住の促進による新たな人の流れが生まれることが期待でき、着実に賑わい創出に向けた取組みが進んでいる。

広小路周辺では、第1期計画から取り組んでいた広小路通りの電線類地中化・美装化工事が12月末に完了したことを受け、装いを新たにした商店街への誘客を促すため、広小路商店街による定期イベントが開始されるなど、ソフト事業による賑わいと活気の呼び込みが見込まれる。また、広小路商店街と民間事業者が連盟で取り組む大規模歴史建築活用事業では飲食・宿泊・土産物販売施設が整備され、新たな集客拠点の創出による観光誘客や既存店の収益増加などが期待される。

福知山城周辺においては、明智光秀を主人公としたNHK大河ドラマの効果により全国から注目を集めていることを好機として、一日城主体験や大茶会開催などのPR施策が展開されるとともに、市民や市民団体等による観光ガイドやゆらのガーデン整備といったおもてなし活動も実施され、中心市街地はもとより本市全体の集客・交流拠点として、リピーターの獲得に向けた施策を展開している。

これらの集客拠点への誘客と併せて、まちなか回遊へ繋げることを目的に、まちなかの見どころを盛り込んだ観光誘導看板を7基設置したほか、中心市街地を面的に発信する取組みとして、複数のイベントを同時開催するまちなかフェスティバルを開催するなど、官民一体となって中心市街地の活性化を推進している状況である。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度 1 月 1 日)

(中心市街地 区域)	平成 27 年度 (計画前年度)	平成 28 年度 (1 年目)	平成 29 年度 (2 年目)	平成 30 年度 (3 年目)	令和元年度 (4 年目)	令和 2 年度 (5 年目)
人口	5,502	5,434	5,379	5,267	5,232	
人口増減数	△67	△68	△55	△112	△35	
自然増減数	△38	△43	△55	△68	△48	
社会増減数	△29	△25	0	△44	13	
転入者数	128	153	161	163	236	

2. 令和元年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

中心市街地活性化協議会では、福知山市とともに、令和元年度に 5 回の定例会を開催し、情報共有と意見交換、そして関係者の連携や協力を促して、基本計画の実施に向けて取り組んできた。

当協議会では、活性化まちづくりの目標である「歴史と文化が育んだ豊かな暮らしと賑わい交流のまち」即ち「新城下町」を目指し、努める中で、特に今年度においては、広小路通り電線類地中化道路美装化事業や統一サイン計画事業、そして駅正面におけるマンション建設、さらには継続的な大規模歴史建築活用事業等懸案の重点事業が進んだ。それらが先導役となって、空き店舗活用、まちなか居住等が進む方向性が強まっている。それらの成果をより多くの人に活用され、生かす努力を強めるとともに、計画の戦略目標である城周辺、広小路、駅正面の各拠点とそれらをつなぐ継続事業の着実な推進とともに、基本計画は一部状況の変化によるものの他、順調に進捗するものと考えている。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
まちなか観光による人々が集う賑わいあるまち	歩行者・自転車通行量 (平日・休日の平均)	3,871 人/日 (H27)	4,200 人/日 (R2)	4,052 人/日 (R1)	B	①	①
「人・もの・情報」が集まり、誰もが快適に暮らせるまち	歴史文化・交流施設利用者数	356,104 人/年 (H26)	390,000 人/年 (R2)	460,713 人/年 (R1)	A	①	①
生活の質を高め、「しごと」の場がある活力あるまち	新規店舗開業数	10 店舗 (H23～H27)	20 店舗 (H28～R2)	23 店舗 (H28～R1)	A	①	①

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値達成、C : 基準値未達成

< 取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類 >

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」については基準値から約5%増加しており、駅周辺と城周辺についてはいずれの地点も増加傾向にあり、集客拠点としての取組みが功を奏しているものと考えられる。広小路周辺においては、調査時点に広小路通りの歩道工事を行っていた影響もあり減少したものの、今後、ソフト事業の実施や大規模歴史建築活用事業による集客力の強化により回復するものと見込んでいる。新型コロナウイルス感染症の影響も懸念されるが、駅周辺のマンション建設、大河ドラマ放送を契機としたリピーター獲得の取組み等により、目標達成は可能と見込まれる。

「歴史文化・交流施設利用者数」については、市民交流プラザふくちやま、ハピネスふくちやまが市民の生涯学習や講座、コミュニティの場として定着したこと、また大河ドラマの効果により福知山城の来館者が倍増したことから目標値を大きく上回った。大河ドラマの効果は一時的なものである部分はあるが、再訪を促す魅力的なアプローチを行うことで継続した利用者数を見込んでおり、目標達成は可能だと見込まれる。

「新規店舗開業数」については、市や京都府の支援事業を活用して8店舗が、また、経済産業省の補助金を活用した大規模歴史建築活用事業で2店舗の、合計10店舗が開業し目標達成となった。

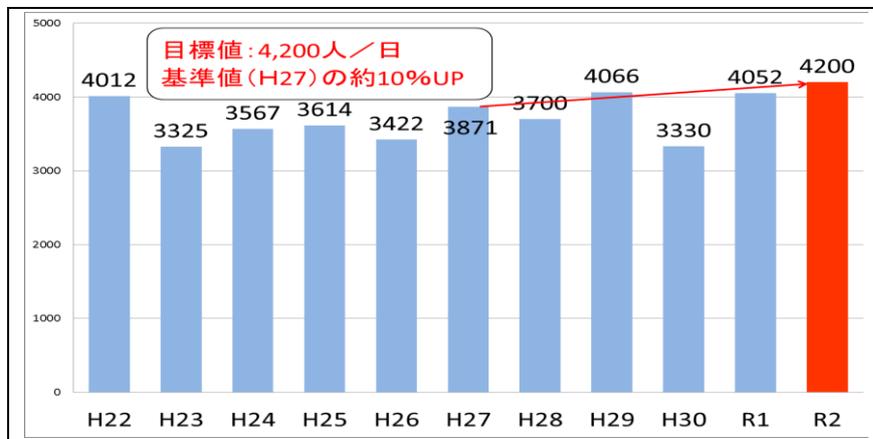
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 83～P. 87 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H27	3,871 (基準年値)
H28	3,700
H29	4,066
H30	3,330
R1	4,052
R2	4,200 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査（中心市街地7地点で実施）

※調査月：令和元年9月実施（平日と休日の2回）

※調査主体：福知山市

※調査対象：歩行者・自転車通行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 大規模歴史建築活用事業（民間）

事業実施期間	平成28年度から令和元年度【完了】
事業概要	中心市街地内の大規模歴史建築を活用し、福知山の風土を五感で味わうことができる宿泊・飲食施設にリノベーションする
国の支援措置名及び支援期間	商店街活性化・観光消費創出事業（経済産業省）（令和元年度） 〔認定基本計画：地域まちなか活性化・魅力創出支援事業費補助金（中心市街地活性化支援事業）のうち先導的・実証的事業（経済産業省）（令和元年度）〕
事業効果及び進捗状況	令和元年度に補助金採択され、歴史的建造物を活用した飲食、宿泊、土産物販売施設が整備された。新型コロナウイルス感染症の影響によりオープン時期が遅れ、また利用者の見込みが立てにくい状況ではあるが、施設利用者がまちなか回遊をするようになり、一日38人程度の通行量の増加を期待している。
事業の今後について	飲食、宿泊、土産物販売施設を有する新たな集客拠点として、また、歴史ある建物とまちなみ景観を活かしたエリアとして、魅力や価値の向上に繋げ、面的な集客を図る。

②. 駅正面リニューアル事業（福知山市、駅正面通り商店街振興組合、福知山フロント株式会社）

事業実施期間	平成 28 年度から令和 2 年度【実施中】
事業概要	福知山駅正面に位置する駅正面通り商店街をまちづくりのコンセプトを策定し、空き家を活用してテナントミックス事業を行う
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業費補助金（中心市街地再興戦略事業）のうち先導的・実証的的事业（経済産業省）（平成 30 年度） 地方創生推進交付金（内閣府）（平成 28 年度から平成 30 年度） 〔認定基本計画：地域まちなか活性化・魅力創出支援事業費補助金（中心市街地活性化支援事業）のうち先導的・実証的的事业（経済産業省）（令和元年度から令和 2 年度）〕
事業効果及び進捗状況	福知山フロント株式会社により空き店舗活用が積極的に推進されており、令和元年度に 1 店舗が新たに開業し、自主出店も含めると 4 年間で 10 店舗が開業している。また、駅正面エリアで夜間イベントを実施することで事業を広く発信し期待値を高めた。併せて、令和 2 年度には民間による 112 戸のマンションが完成予定であり、新たな人の流れが生まれることで、さらなる通行量の増加が見込まれる。
事業の今後について	引き続き、空き店舗活用に取り組むとともに、街なみ環境整備事業によるファサード整備に取り組み、駅正面エリアの魅力的な景観を形成し、集客、賑わいの創出を図る。

③. 福知山城周辺都市施設整備構想（福知山市、民間）

事業実施期間	平成 28 年度から令和 2 年度【未】
事業概要	福知山城周辺賑わい創出施設（ゆらのガーデン）に続く第 2 弾プロジェクト。公共施設の再編とあわせて、文化・商業空間として整備する
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	城周辺の丹波生活衣館については、令和 3 年 1 月までは大河ドラマ放送により佐藤太清美術館を光秀ミュージアムとして活用していることから、美術館の代替展示場として活用している。その後についても、市全体の文化振興の将来像や方向性を定めた「文化振興基本方針」に基づき、有効に活用していくこととしている。
事業の今後について	基本方針を指針として、大河ドラマ放送終了後の丹波生活衣館のさらなる利活用について検討を進める。

④. 町家活用ゲストハウス施設整備事業（福知山フロント株式会社）

事業実施期間	平成 28 年度【済】
事業概要	中心市街地にある旅館を活用し、ゲストハウスとして改修し交流人

	口を増やす
国の支援措置名及び支援期間	商店街・まちなかインバウンド促進支援事業（中心市街地活性化事業）（経済産業省）（平成 28 年度）
事業効果及び進捗状況	平成 29 年 3 月に駅正面通り商店街にゲストハウス「ノースフロントホテル」が開設され事業は完了した。稼働率も高く推移しており、令和元年度実績では 8 割超となっており、外国人観光客による利用者も新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、平成 30 年度より 2%増加している。近隣調査地点の通行量も基準値より 30%増加しており、駅正面リニューアル事業と併せて、賑わい創出や回遊性の向上に寄与している。
事業の今後について	駅正面リニューアル事業によるテナントミックス事業と、駅正面エリアで取り組む街なみ環境整備事業の推進と併せて、効果的な広報活動を行うことでエリアへの誘客を図る。

⑤. まち歩き観光促進事業（福知山市、福知山まちづくり株）

事業実施期間	平成 27 年度から令和 2 年度【実施中】
事業概要	長年の課題となっている駐車場不足を解消し、中心市街地の利用頻度を高める
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 28 年度～平成 29 年度） 〔認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 28 年度～令和 2 年度）〕
事業効果及び進捗状況	平成 29 年度まで福知山パークングの 1 時間無料化を行っていたが、平成 30 年度からは、店舗利用者に 30 分無料券を配布することでまちなか回遊を促進する仕組みとした。大河ドラマ放送により利用者の増加を見込んでいたが、広小路通りの道路工事期間の延長及び新型コロナウイルス感染症による影響を受け、平成 30 年度から約 6%の増加にとどまった。ただ、パークング利用台数のうち本事業利用台数は 33%から 36%に向上しており、事業の周知を図るとともに店舗等の情報発信を行うことで、来街の動機付けと回遊を促し、事業利用者の増加に繋げ、目標値としている 1 日あたり 26 人の通行量の増加を目指す。
事業の今後について	広小路通りの電線類地中化・道路美装化工事の完了、また大規模歴史建築活用事業実施により、新たな人の流れが期待でき、事業及び店舗情報の効果的な情報発信を行うことで活用を促進する。

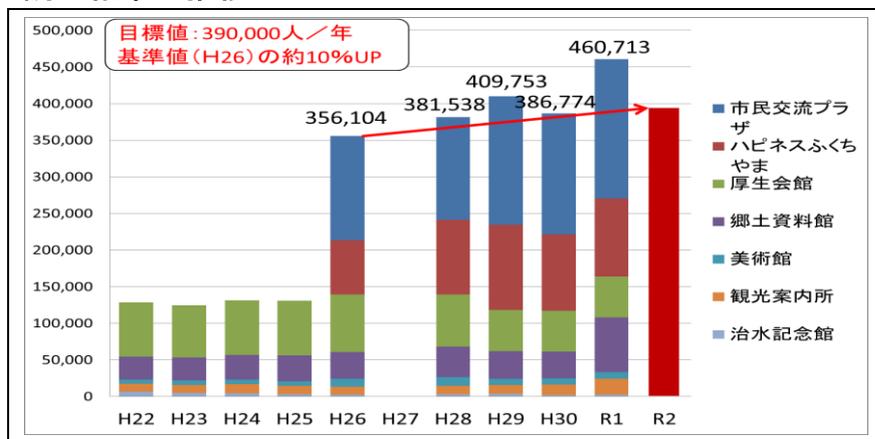
●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能だと思われる。今後は、駅周辺・城周辺事業の継続した取組みと、広小路周辺のソフト事業の実施や大規模歴史建

築活用事業による施設への集客、そして大河ドラマの効果を一過性のものにしないための取組みを総合的に実施することで、さらに実績を伸ばしていきたい。

「歴史文化・交流施設利用者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 88～P. 91 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H26	356,104 (基準年値)
H28	381,538
H29	409,753
H30	386,774
R1	460,713
R2	390,000 (目標値)

※調査方法：歴史文化・交流施設の利用者数調査

※調査月：令和元年2月実施

※調査主体：福知山市

※調査対象：歴史文化・交流施設の利用者数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 厚生会館改修事業（福知山市）

事業実施期間	平成28年度から令和2年度【実施中】
事業概要	本市の文化振興の拠点である厚生会館について、社会環境に即した改修を行なうとともに、機能改善を目指す
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成31年3月に策定した「文化振興基本方針」において、厚生会館の整備については「老朽化している他の施設との効果的な機能集約も図るなかで、文化活動の核となる文化ホールについて、新たな建設も含め検討する」との方向性を示している。事業完了時には3,491人の利用者数の増加を見込んでいる。
事業の今後について	目指す将来像や基本目標、取組の方向性を定めた基本方針を指針として、厚生会館の改修・機能改善について検討を進める。

②. 市民交流プラザふくちやま活用事業（福知山市）

事業実施期間	平成28年度から令和2年度【実施中】
事業概要	市民交流プラザふくちやまでの講座開設者を充実するための広報活動等を実施し、市民に社会参加の機会や新たな価値との出会いの

	場を提供する
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成26年にオープンした市民交流プラザは、市民の社会参加の機会や新たな価値との出会いの場の提供等を目的として、継続して広報活動を実施している。令和元年度利用者数は190,077人で過去最高となった。基準値と比較すると約33%増加しており、目標達成となった。
事業の今後について	プラザは生涯学習センターとして市民や利用者にとってなくてはならない施設として認知されており、今後も生涯学習、新しい講座の開設や研修会、コミュニティ活動の場として一層の利活用が図られるよう、広報活動の充実を図り、利用者を募る。

③. ハピネスふくちやま活用事業（福知山市）

事業実施期間	平成28年度から令和2年度【実施中】
事業概要	ハピネスふくちやままでの子育て世代の教室及び健康推進事業、障害者生活支援事業、男女共同参画推進事業等を実施
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年度から、ハピネス1階に子育てに関する施策や窓口を一元化した「子ども政策室」を設置し、利便性の向上と子育て家庭の課題に寄り添った支援を行った。男女共同参画センターにおいても、あらゆる人権問題の解決や男女共同参画社会の推進に向けた講座や研修等が年間1,311回開催された。利用者数は106,675人で基準値の74,116人を大きく上回り、目標値である6,000人の利用者増加を達成した。
事業の今後について	目標値は達成しており、今後も順調に推移すると見込まれる。今後も、各種相談窓口や健康教室、人権講座等を開催し、一層の利活用を図る。

④. 佐藤太清記念美術館特別展事業（福知山市）

事業実施期間	平成28年度から令和2年度【実施中】
事業概要	福知山市佐藤太清記念美術館で特別展を開催し、福知山市民としてのアイデンティティ増幅に寄与する
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成29年度から平成30年度）
事業効果及び進捗状況	令和元年度は3回の特別展・企画展を開催し、入館者は昨年度より約7%増加したものの、基準値10,644人には届いておらず、2,000人の入館者増加の目標は達成できなかった。

事業の今後について	美術館2階は、令和2年1月から1年間は大河ドラマ放送に併せて「光秀ミュージアム」として活用されるため、これを契機に新たな顧客獲得に向けて、さらなる情報発信や魅力ある企画展の開催に努め、利用者数の増加に繋げる。
-----------	--

⑤. 駅北口公園賑わい事業（福知山市、民間）

事業実施期間	平成28年度から令和2年度【実施中】
事業概要	福知山駅北口公園を活用し、賑わいあるイベント等を活用のマネジメントを行う
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	年間12回のイベント利用があり16,930人を集客し、目標値3,600人を大きく上回った。回を重ねるごとに集客数が増加しているイベントもあり、また、例年開催しているものに加えて、新たに利用されるケースもあり、継続した利活用により駅北口公園の認知度向上と活用促進に寄与している。
事業の今後について	駅正面通りや広小路周辺、お城周辺のイベントとも連携を深め、集客・回遊に繋げるイベントを実施する。

⑥. 福知山城観光駐車場拡張事業（福知山市、城周辺賑わい創出プロジェクト会議）

事業実施期間	平成28年から平成29年度【済】
事業概要	福知山城周辺施設の利用促進のため、長年の課題である駐車場不足を解消するため、観光駐車場を拡張する
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年3月に、福知山公園観光駐車場に隣接する「京口荘」を解体・撤去し、新たに10台の駐車スペースを確保することができ、駐車台数が15%の増加となった。令和元年度は大河ドラマの効果もあり、福知山城入館者数は74,886人と基準値の36,289人から2倍以上に増加しており、周辺駐車場や未利用地等の活用と併せて、ようやく駐車台数を確保した状況であった。
事業の今後について	令和2年度は大河ドラマの効果により、入館者数は増加すると見込まれるが、大河ドラマ終了後においても引き続き駐車環境を整え、入館者の増加に繋げる。

⑦. 観光情報発信力強化事業（福知山市、商店街）

事業実施期間	平成28年度から令和2年度【未】
事業概要	城下町福知山の観光情報を広域に発信し、利用者増につなげる
国の支援措置名	国の支援措置なし

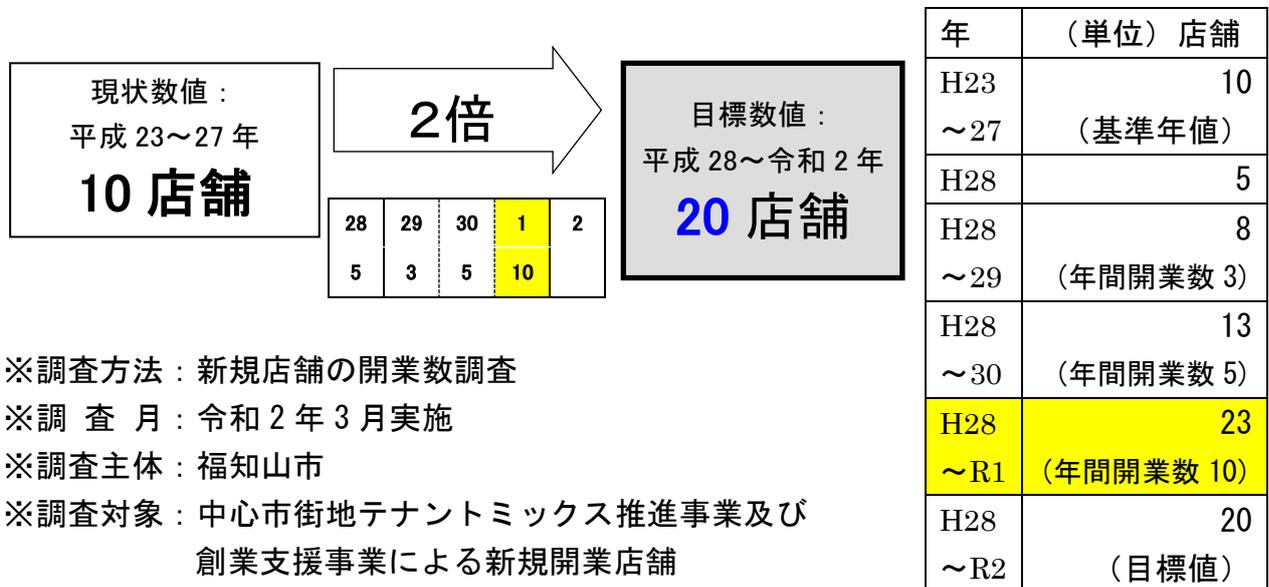
及び支援期間	
事業効果及び進捗状況	Wi-Fi スポットの設置にかかる必要経費の負担も含めて、最適なネット環境について検討中である。 目標値：施設利用者 1,000 人増加
事業の今後について	情報入手の利便性を図ることは誘客に有効であるため、今後も継続して設置を検討する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業の順調な進捗に加えて、大河ドラマの効果により、目標達成は可能だと思われる。施設によっては基準値より利用者を下げたところもあったが、大河ドラマで全国から注目を集めている状況をリピーター獲得の好機ととらえ、工夫を凝らした事業と周辺活性化施策との連携を図っていくことで、さらに実績を伸ばしていきたい。

「新規店舗開業数」※目標設定の考え方基本計画 P92～P94 参照

●調査結果の推移



※調査方法：新規店舗の開業数調査

※調査月：令和 2 年 3 月実施

※調査主体：福知山市

※調査対象：中心市街地テナントミックス推進事業及び
創業支援事業による新規開業店舗

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中心市街地テナントミックス推進事業（福知山市、福知山まちづくり株、民間）

事業実施期間	平成 23 年度から令和 2 年度【実施中】
事業概要	中心市街地内における空き家を利用した飲食・物販等のショップ開業に対し、経済産業省の補助金活用の自己負担分の補助やタウンマネージャーの支援を実施
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	令和元年度での事業実施はなかったが、これまで、駅周辺エリアにおいて平成 28 年度にゲストハウス、平成 30 年度にケーキ店、うどん店（のちにステーキハウス）、エステネイルサロンの 4 店舗が

	開業し、それぞれのターゲット層を誘客することで、新たな人の流れが生まれている。令和2年度において事業実施予定はないが、福知山フロント株式会社により空き店舗を活用した開業を検討されていることから、目標値である5店舗目を期待したい。
事業の今後について	現在リニューアルを進めている駅正面通りを中心に、空き店舗等のマッチングを進め、さらなる利活用を推進する。

②. 中心市街地創業支援事業（福知山市、福知山商工会議所）

事業実施期間	平成27年度から令和2年度【実施中】
事業概要	中心市街地での起業・創業対象者に、起業塾や先進事例の視察などを開催し、開業支援を行う
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	市や京都府の補助制度を活用し、広小路周辺に食料・雑貨店と鍼灸院×2、駅周辺に飲食店×2、新町通りにチャレンジショップ、その他のエリアで美容サロンと障害者作業所が開業した。またこれまでの4年間で17店舗が開業し、目標値である年間3店舗を達成しており、新たなビジネスにチャレンジしやすい環境作りに寄与していると考えられる。
事業の今後について	令和2年度においても複数の案件が進行しており、順調に推移すると見込まれる。今後も新たな開業希望者の掘り起こしを図るとともに、事業を周知することでさらなる活用を促進する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

テナントミックス事業、創業支援に関連する事業ともに、新規開業件数は順調に進捗し、新規開業目標は達成された。今後は、さらなる開業に向け、ワンダーマーケット実行委員会が開業したチャレンジショップとも連携し、多面的に支援をすることでさらに実績を伸ばしていきたい。